

[成果情報名] 関東系ヤマメ、地場産サクラマス の県内における河川放流実態

[要 約] サクラマスの放流実績は近年減少傾向にあるが、その中でも関東系ヤマメの放流数は減少傾向で、放流割合も縮小し、放流河川も県南部に限られるようになっている。

[部 署] 山形県内水面水産試験場生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] ヤマメ、サクラマス、河川放流

[背景・ねらい]

本県では遊漁のためにスモルト率の低い関東系ヤマメが放流されてきたが、近年、この関東系ヤマメとの交雑がサクラマス回帰率の低下を招く事が危惧されている。そこで、関東系ヤマメと地場産サクラマスの県内における河川放流の実態を調査し、県内における関東系ヤマメの河川への放流履歴をデータベース化し、地場産サクラマスの増殖振興のための資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 関東系ヤマメの放流実績について、県内の内水面漁業協同組合の放流履歴から、系統、放流数量、放流域について 1997～2008 年までの資料を整理し、データベースとした。
2. 関東系ヤマメの放流数は 1997 年の 20 万尾から徐々に減り、ここ数年は 8 万尾前後で推移している。地場産サクラマスは 2002 年まで増加しながら 100 万尾まで放流されたが、その後減少しておりここ数年は 60 万尾程度で推移している。関東系ヤマメの放流数全体に占める割合は 1997 年に 25%程度だったが、その後急減し、2001 年以降は 10～13%程度で推移している(図 1)。
3. 1997 年には庄内地方でも放流されていたが、近年は置賜地方を中心とした県南部での放流が主となっている(図 2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 関東系ヤマメと地場産サクラマスの交雑はスモルト率を低くし、降海型の雄が激減することが予想されることから、地場産サクラマスの増殖を振興するためには関東系ヤマメとの交雑を避けるよう配慮が必要である。

[具体的なデータ]

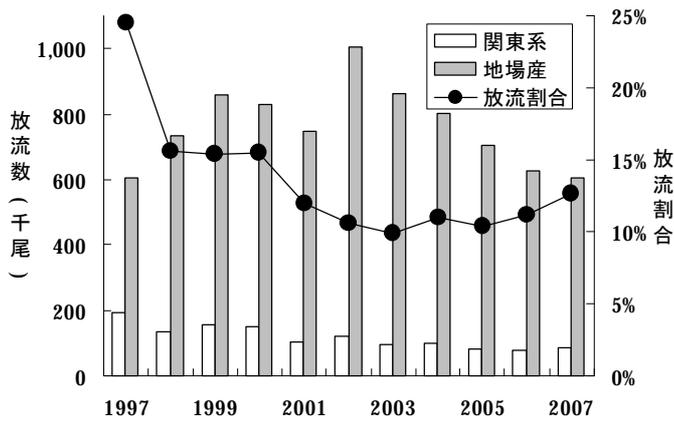


図1 関東系ヤマメと地場産サクラマスの放流数と関東系ヤマメの放流割合



図2-1 関東系ヤマメの放流河川 (1997年)

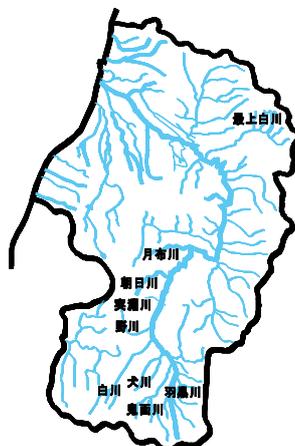


図2-2 関東系ヤマメの放流河川 (1998年)



図2-3 関東系ヤマメの放流河川 (1999~2001年)

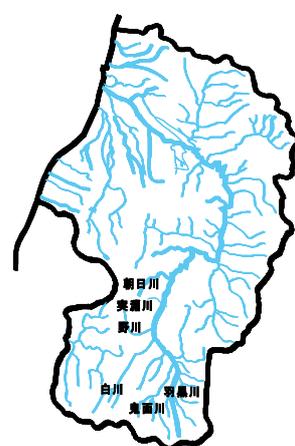


図2-4 関東系ヤマメの放流河川 (2002年)



図2-5 関東系ヤマメの放流河川 (2003年)



図2-6 関東系ヤマメの放流河川 (2004年)



図2-7 関東系ヤマメの放流河川 (2005年)



図2-8 関東系ヤマメの放流河川 (2006~2008年)

[その他]

研究課題名：関東系ヤマメと地場産サクラマスの交雑による影響調査

予算区分：県単

研究期間：平成21年度（平成20～21年度）

研究担当者：大川恵子、鈴木裕之

発表論文等：なし